

## II. 出産について

### 1. 子どもをもつことへの考え方

#### (1) 子どもをもつことに対する考え方 (問 11)

次に、出産について、いくつかお聞きします。

問 11 [カード 10] あなたは、自分の子どもをもつことに対して、どのように考えていますか。すでにお子さんがいらっしゃる方は、子どもをもつ前にどのように考えていたかということについてお答えください。次の中から重要なものを、3つまで選んでください。(3M.A.)

- |                          |                         |
|--------------------------|-------------------------|
| 1 子どもをもつことは自然なことである      | 9 配偶者や親など周囲が望むから、子どもをもつ |
| 2 自分の子孫を残すことができる         | 10 自分の家の家名を残すことができる     |
| 3 子どもをもつことで周囲から認められる     | 11 自分の自由な時間が制約される       |
| 4 子どもがいると生活が楽しく豊かになる     | 12 経済的な負担が増える           |
| 5 子どもは老後の支えになる           | 13 身体的・精神的な負担が重くなる      |
| 6 子どもは将来の社会の担い手となる       | 14 その他(具体的に)            |
| 7 子どもは夫婦関係を安定させる         | 15 特にない                 |
| 8 好きな人の子どもをもちたいから、子どもをもつ | 16 わからない                |

自分の子どもをもつことに対してどのように考えているかを聞いたところ、日本では、「子どもがいると生活が楽しく豊かになる」が 62.7%で最も高く、前回の 59.7%より 3.0 ポイント増加している。前回最も多かった「子どもをもつことは自然なことである」は 57.9%で前回 68.5%から 10.6 ポイント減少している。一方で、「子どもは将来の社会の担い手となる」は前回調査の 18.3%から 6.1 ポイント上昇して 24.4%となっている。

各国比較では、今回調査において、日本同様アメリカ、フランス、スウェーデンで「子どもがいると生活が楽しく豊かになる」が最も多く 6 割を超えた(順に、60.2%、67.8%、69.9%)。韓国では前回と同様に「子どもをもつことは自然なことである」が最も多く、81.8%と 8 割を超えた。

また、今回調査では「子どもをもつことは自然なことである」または「子どもがいると生活が楽しく豊かになる」の 2 つの項目が日本を含む全ての国において上位 2 位以内に入っている。(表 II-1)

表 II-1

(%)

	自然な ことである	子ども をもつこ とができる	自分の 子孫を残 すこと	周囲か ら認めら れること	子ども もつこと で豊かに なる生活	子ども は老後の 支えにな る	子ども は将来の 社会の担 い手とな る	子ども は夫婦関 係を安定 させる	子ども は夫の関 係をもち たいから 、子ども をもつ	子ども は夫の関 係をもち たいから 、子ども をもつ	子ども は夫の関 係をもち たいから 、子ども をもつ	子ども は夫の関 係をもち たいから 、子ども をもつ	子ども は夫の関 係をもち たいから 、子ども をもつ	子ども は夫の関 係をもち たいから 、子ども をもつ	子ども は夫の関 係をもち たいから 、子ども をもつ	子ども は夫の関 係をもち たいから 、子ども をもつ	子ども は夫の関 係をもち たいから 、子ども をもつ	子ども は夫の関 係をもち たいから 、子ども をもつ
日本	2	5		1		3	4											
2010年(1248人)	57.9	20.0	3.5	62.7	12.7	24.4	21.0	18.5	2.4	4.8	6.8	13.1	3.6	-	1.3	0.5		
	1	5		2			4	3										
2005年(1115人)	68.5	21.2	4.1	59.7	10.5	18.3	21.5	21.9	2.3	4.3	8.9	11.4	4.4	0.2	1.1	1.0		
韓国	1			2			3	5				4						
2010年(1005人)	81.8	18.1	9.3	45.2	8.0	13.7	42.6	21.0	8.8	2.5	7.9	23.3	5.6	-	0.3	0.5		
	1	4		3			2					5						
2005年(1004人)	85.1	22.6	13.6	43.5	5.3	11.8	46.1	19.6	10.8	2.7	4.8	19.9	4.5	0.4	1.3	-		
アメリカ	2	5		1				3				4						
2010年(1000人)	60.0	16.8	3.5	60.2	8.4	10.7	13.0	36.7	2.4	8.6	9.8	17.7	9.0	0.8	0.5	1.3		
	1	4		2	5			3										
2005年(1000人)	63.0	12.7	2.9	60.6	10.0	7.6	9.5	35.4	1.8	6.3	9.3	9.7	7.6	0.9	1.3	2.5		
フランス	2	4		1			5	2										
2010年(1002人)	54.7	19.3	2.2	67.8	8.1	6.6	12.2	54.7	2.0	6.7	5.4	5.6	3.7	0.5	1.7	0.2		
	1	4		2			5	3										
2005年(1006人)	71.6	22.7	1.2	58.6	9.8	5.8	15.2	47.2	2.6	6.7	4.8	3.3	2.9	1.4	3.8	0.7		
スウェーデン	2	5		1			4	3										
2010年(1001人)	52.0	13.8	3.7	69.9	12.1	13.9	5.4	34.8	0.9	1.6	5.0	7.2	6.5	2.3	2.9	1.5		
	2			1	4	5		3										
2005年(1019人)	58.4	7.0	1.4	76.8	13.6	10.5	6.3	54.1	1.0	1.4	8.3	6.9	5.4	1.7	0.1	0.4		

注：上段の網掛け数字は各国の上位5項目の順番

(2) 結婚したら子どもをもつべきか (問 12)

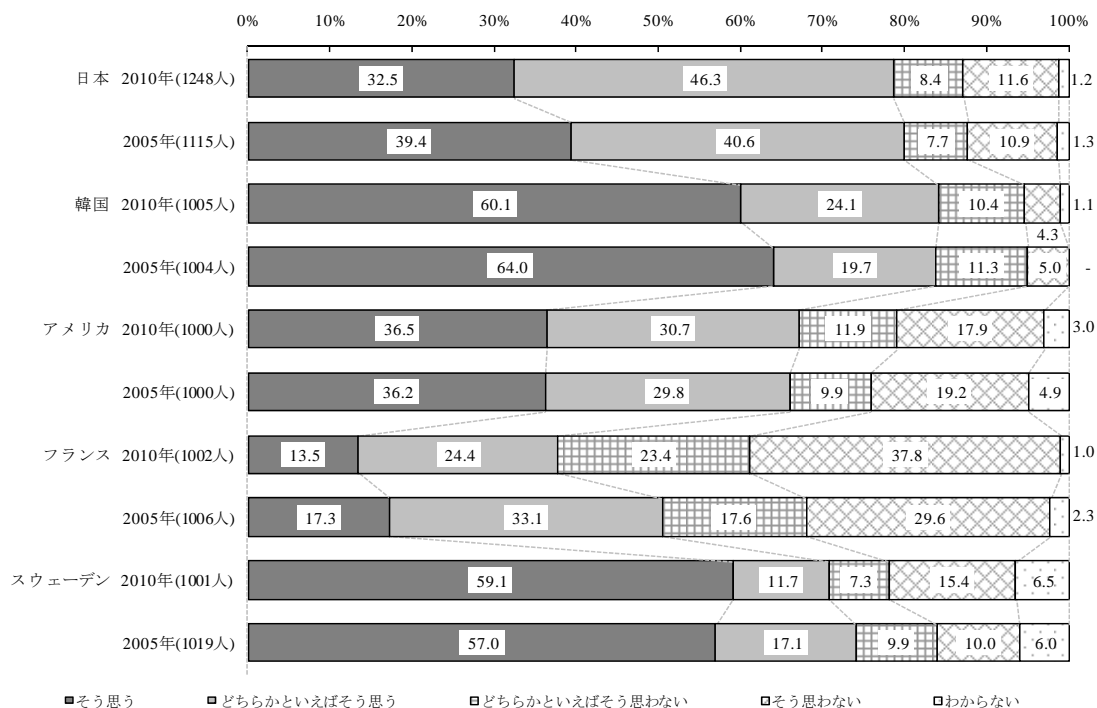
問 12 [カード 11] あなたは、結婚したら自分自身の子どもは必ずもつべきだと思いますか。この中から 1 つだけ選んでください。

- |                  |          |
|------------------|----------|
| 1 そう思う           | 4 そう思わない |
| 2 どちらかといえばそう思う   | 5 わからない  |
| 3 どちらかといえばそう思わない |          |

結婚したら自分自身の子どもは必ずもつべきだと思うか聞いたところ、日本では、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は 78.8%で、前回の 80.0%とあまり変わらない。「そう思う」は 32.5%であり、前回調査から 6.9 ポイント減少している。

各国比較では、今回調査において、日本、韓国、アメリカ、スウェーデンで、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を足した、子どもをもつことに対する肯定的な考えを持つ人の割合が約 7~8 割 (順に、78.8%、84.2%、67.2%、70.8%)。また、子どもをもつことに対する肯定的な考えを持つ人の割合は韓国が 84.2%と最も多い。(図 II-1)

図 II-1



## 2. 子どもの人数

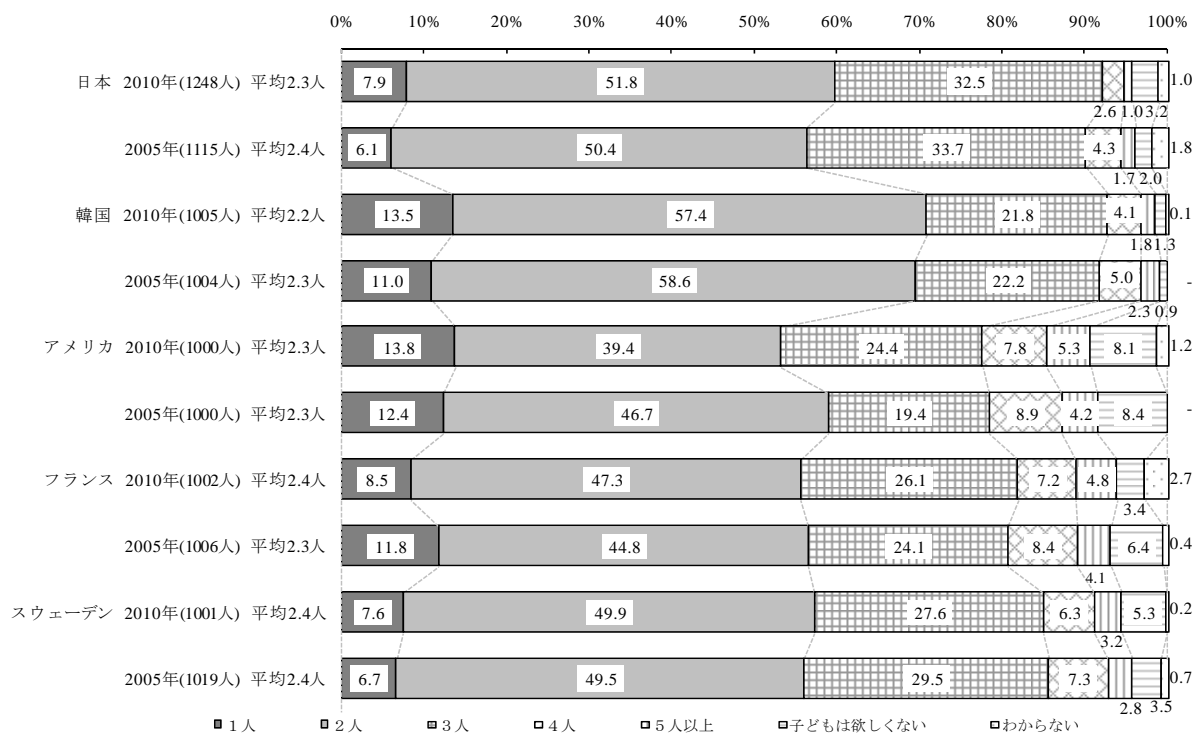
### (1) ほしい子どもの人数 (問 13)

問 13 あなたは、全部で何人の子どもを欲しいですか。すでにお子さんがいる場合には、そのお子さんも含めてお答えください。

全部で何人の子どもを欲しいか聞いたところ、日本では、前回調査と同様、「2人」が最も多く、51.8%。また、「2人」と「3人」と答えた人の合計は8割を超え、「3人」は各国の中で日本が最も高い。

各国比較でみると、今回調査において、韓国、フランス、スウェーデンの3カ国は「2人」と「3人」の合計が7割を超えている。一方、アメリカは、わずかな違いではあるが、「1人」あるいは「4人」、「5人以上」と回答した割合及び「子どもは欲しくない」と回答した割合が他の国に比べて最も多い。(図 II-2)

図 II-2



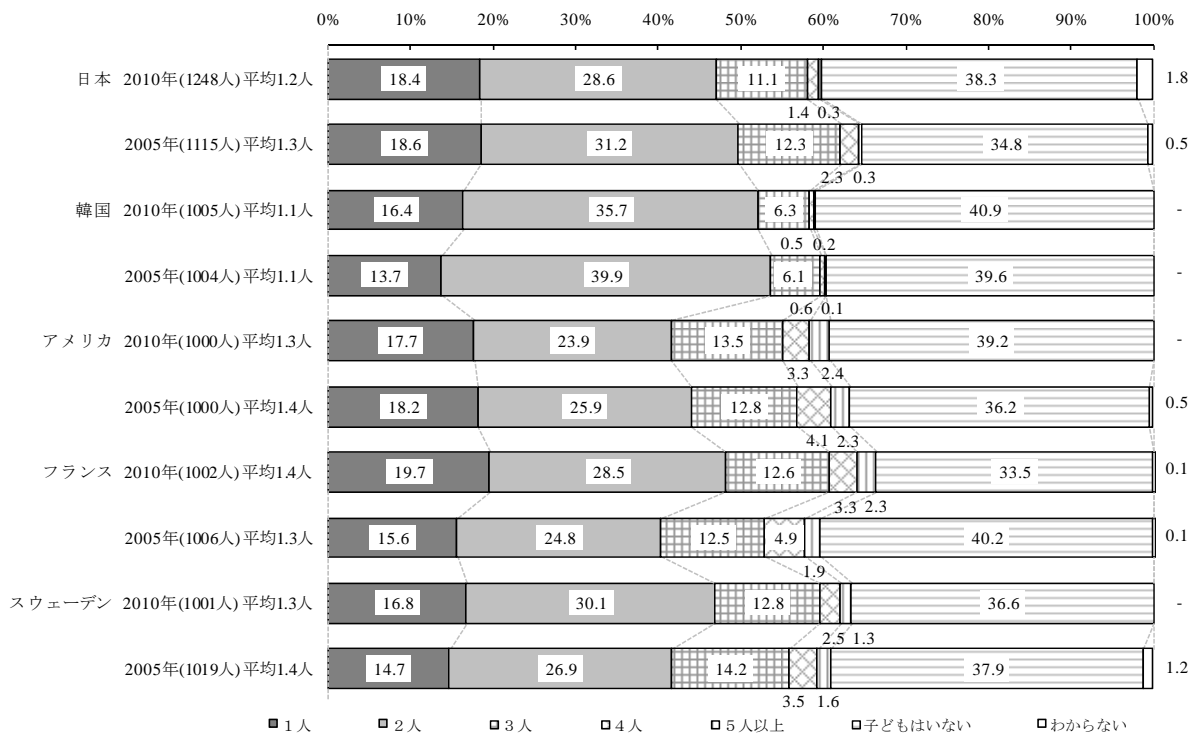
(2) 現在の子どもの数 (問 14)

問 14 実際のあなたのお子さん（養子を含む）の数は何人ですか。

実際の子どもの数を聞いたところ、日本では、前回調査と同様、「2人」が28.6%と最も高いが、前回の31.2%から2.6ポイント減少している。また、子どもがいる合計は59.8%で、前回の64.7%よりも4.9ポイント減少している。

各国比較では、韓国は子どもがいる合計が他の国に比べて最も低く59.1%である。アメリカ、フランス、スウェーデンでは子どもがいる合計は6割を超えており、中でもフランス、スウェーデンでは、「1人」、「2人」ともに前回調査よりも上昇している。また、フランスでは、「子どもはいない」が前回40.2%だったが、今回は33.5%で、6.7ポイント減少している。(図 II-3)

図 II-3



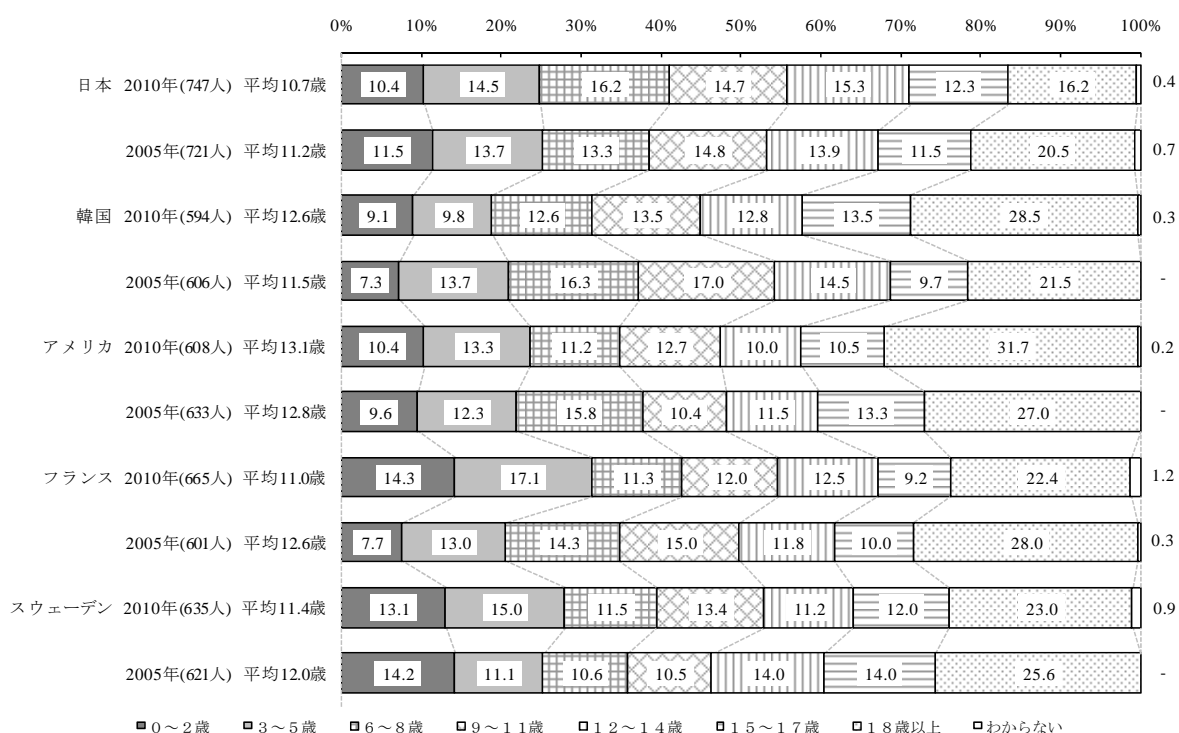
【現在、子どものいる方に】

S Q お子さんの年齢はおいくつですか。一番上と一番下のお子さんについてお答えください。  
(長子について集計)

現在、子どものいる人に子どもの年齢（長子）を聞いたところ、日本では、6～8歳、18歳以上がともに16.2%で最も高かった。また、0～11歳の合計は、前回調査と同様、5割を超えている。

各国比較では、今回調査において、韓国、アメリカでは0～11歳の合計は5割に満たないが、フランス、スウェーデンでは0～11歳の合計は5割を超えている。(図 II-4)

図 II-4

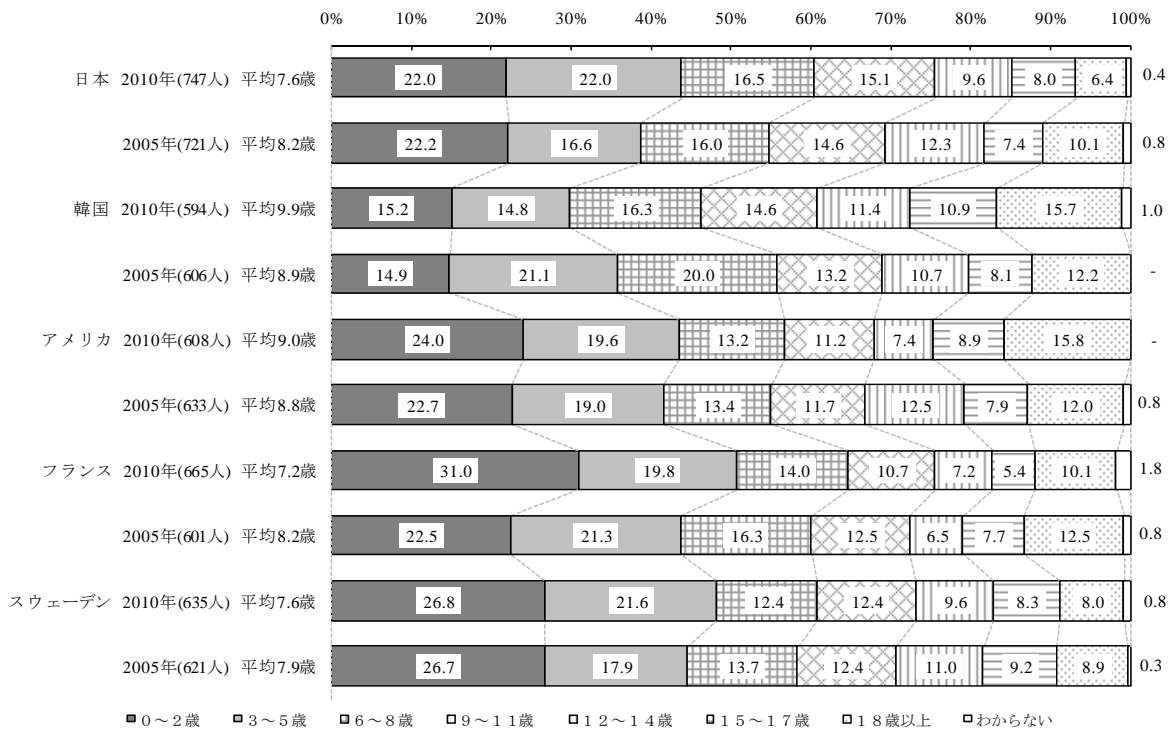


【現在、子どものいる方に】

S Q お子さんの年齢はおいくつですか。一番上と一番下のお子さんについてお答えください。  
(末子について集計)

現在、子どものいる人に子どもの年齢（末子）を聞いたところ、日本では、0～2歳、3～5歳がともに22.0%で最も高かった。また、0～8歳の合計は、前回調査より上昇し、6割を超えている。各国比較では、韓国、アメリカでは0～8歳の合計は6割に満たず、フランス、スウェーデンでは日本と同様に、0～8歳の合計が6割を超えている。(図 II-5)

図 II-5



注：前回調査では第1子から第6子までの年齢を尋ねているため、そのうち、もっとも低い年齢の子を集計対象としている。7人以上の子どもがいる者については、末子の年齢を「わからない」とし集計している。また、集計に当たっては、1人以上子どもがいる者について集計している。

(3) さらに子どもを増やしたいか (問 15)

【問 13 で答えた子どもの数よりも、問 14 で答えた実際の子どもの数が少ない方に】

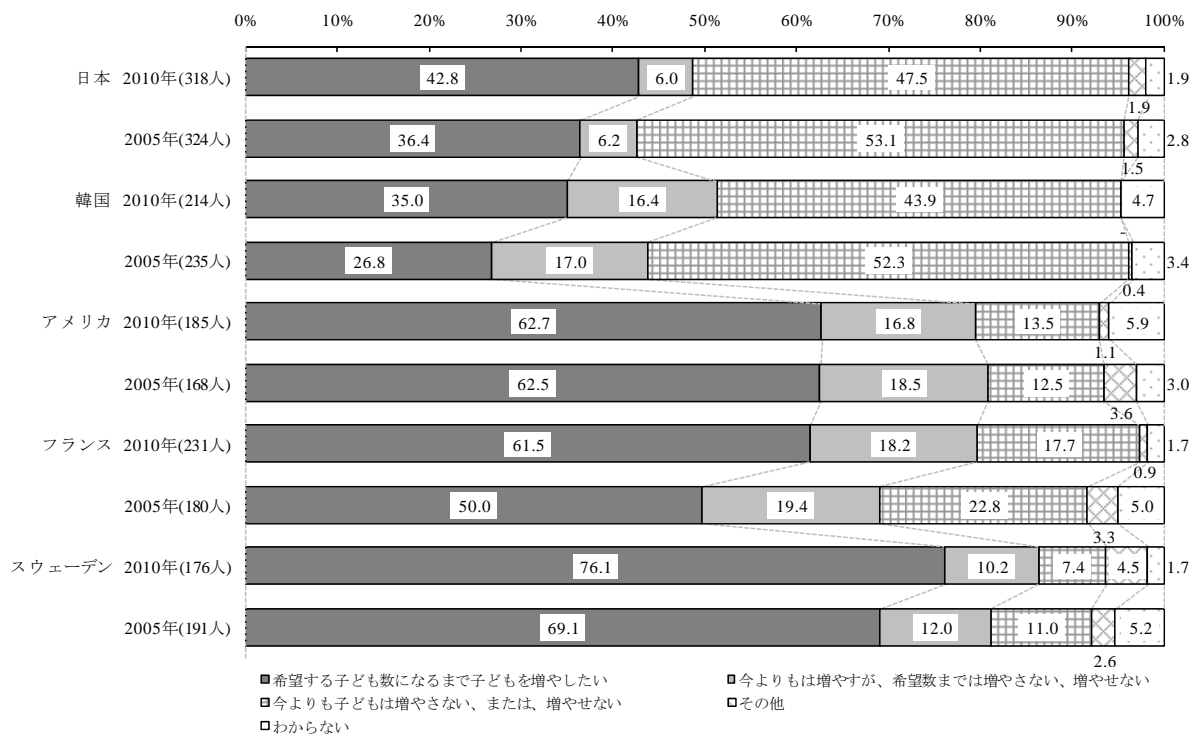
問 15 [カード 12] あなたは、今よりも、子どもを増やしたいと思いますか。この中から 1 つだけ選んでください。

- |  |                           |
|--|---------------------------|
| 1 希望する子ども数になるまで子どもを増やしたい                     | 3 今よりも子どもは増やさない、または、増やせない |
| 2 今よりも子どもは増やすが、希望する子ども数になるまでは増やさない、または、増やせない | 4 その他 (具体的に)              |
|  | 5 わからない                   |

ほしい子どもの数よりも実際の子どもの数が少ない人に、今よりも子どもを増やしたいと思うか聞いたところ、日本では、「希望する子ども数になるまで子どもを増やしたい」は 42.8%で前回調査の 36.4%よりも 6.4 ポイント上昇している。一方、「今よりも子どもは増やさない、または、増やせない」は 47.5%で全体の割合の中で最も多いが、前回調査の 53.1%から 5.6 ポイント減少している。

各国比較では、今回調査において、韓国は日本と同様に「今よりも子どもは増やさない、または、増やせない」が 43.9%で最も高いが、アメリカ、フランス、スウェーデンの 3 カ国では「希望する子ども数になるまで子どもを増やしたい」が最も高い。(順に、62.7%、61.5%、76.1%) (図 II-6)

図 II-6





(4) 子どもを増やしたくない理由 (問 16)

【問 15 で「2」または「3」と答えた方に】

問 16 [カード 13] 希望する数まで、または今よりも子どもを増やさない、または、増やせない理由は何ですか。この中からあてはまるものを、いくつでも選んでください。(M.A.)

- 1 子育てや教育にお金がかかりすぎるから
- 2 保育サービスが整っていないから(\*)
- 3 雇用が安定しないから(\*)
- 4 働きながら子育てができる職場環境がないから(\*)
- 5 自分の昇進・昇格に差し支えるから(\*)
- 6 家が狭いから
- 7 子どもがのびのび育つ社会環境でないから
- 8 自分や夫婦の生活を大切にしたいから
- 9 自分または配偶者が高年齢で、産むのがいやだから
- 10 これ以上、自分または配偶者が育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから
- 11 妊娠・出産のときの身体的・精神的な苦痛が嫌だから
- 12 健康上の理由から
- 13 欲しいけれども妊娠しないから
- 14 配偶者の家事・育児への協力が得られないから
- 15 配偶者が望まないから
- 16 その他(具体的に)
- 17 特にない
- 18 わからない

注：(\*)を付した選択肢は前回調査から新規に追加したものである。

日本の男性、女性ともに、前回調査同様「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が最も高い(男性：44.6%、女性：39.5%)。また、今回調査で新たに追加した「働きながら子育てできる職場環境がないから」は、日本の男性で14.3%のところ、女性では26.3%。同じく新たに追加した「雇用が安定しないから」は日本の男性は10.7%、女性は14.9%で、いずれも女性のポイントが高い。

各国比較では、男女ともに日本、韓国とアメリカで「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が最も高い。特に韓国における割合は他国に比べて多く7割を超える。フランスでは、男性は「自分または配偶者が高年齢で、産むのがいやだから」が20.6%、女性では「健康上の理由から」が28.6%で最も高い。スウェーデンの女性は前回同様、「自分または配偶者が高年齢で、産むのがいやだから」が最も高い。(表 II-2)

表 II-2

(%)

男性	子育てや教育にお金がかかりすぎるから	保育サービスが整っていないから(*)	雇用が安定しないから(*)	働きながら子育てができる職場環境がないから(**)	働きながら子育てができる職場環境がないから(**)	自分の昇進・昇格に差し支えるから(**)	自分の昇進・昇格に差し支えるから(**)	家が狭いから	子どもがのびのび育つ社会環境でないから	自分や夫婦の生活を大切にしたいから	自分または配偶者が高齢で、産むのがいやだから	自分または配偶者が育児の負担に耐えられないから	自分または配偶者が育児の負担に耐えられないから	精神的な苦痛が嫌だから	健康上の理由から	欲しいけれども妊娠しないから	配偶者の家事・育児への協力が得られないから	配偶者が望まないから	その他	特にな	わからない
日本	1	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
2010年(56人)	44.6	5.4	10.7	14.3	1.8	12.5	14.3	5.4	26.8	8.9	-	10.7	3.6	1.8	3	14.3	3.6	7.1	-	-	
2005年(67人)	55.2	-	-	-	7.5	10.4	7.5	13.4	32.8	11.9	-	7.5	9.0	1.5	6.0	1.5	4.5	-	-	-	
韓国	1	3	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
2010年(60人)	73.3	20.0	16.7	15.0	-	3.3	6.7	3.3	33.3	13.3	5.0	1.7	8.3	3.3	5	15.0	-	-	-	-	
2005年(66人)	69.1	-	-	-	11.0	14.2	18.8	7.9	28.4	12.1	6.2	13.1	7.1	10.6	4	17.9	4.9	1.4	1.5	-	
アメリカ	1	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
2010年(20人)	35.0	-	15.0	-	-	10.0	5.0	15.0	15.0	5.0	-	5.0	25.0	-	5	5	5	5	5	5	
2005年(24人)	33.3	-	-	-	8.3	4.2	4.2	-	16.7	4.2	-	8.3	8.3	4.2	2	2	2	2	2	2	
フランス	1	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
2010年(34人)	11.8	11.8	11.8	8.8	2.9	14.7	8.8	-	20.6	5.9	2.9	14.7	8.8	2.9	3	14.7	8.8	17.6	-	-	
2005年(27人)	17.7	-	-	-	3.7	9.8	17.2	23.6	21.8	6.8	4.8	9.5	7.5	5.0	1	28.2	16.0	3.1	4.3	-	
スウェーデン	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
2010年(8人)	-	-	-	-	-	12.5	-	12.5	12.5	12.5	-	-	12.5	-	2	2	2	2	2	2	
2005年(11人)	18.2	-	-	-	9.1	18.2	-	18.2	45.5	18.2	9.1	9.1	18.2	-	2	2	2	2	2	2	

(%)

女性	子育てや教育にお金がかかりすぎるから	保育サービスが整っていないから(*)	雇用が安定しないから(*)	働きながら子育てができる職場環境がないから(**)	働きながら子育てができる職場環境がないから(**)	自分の昇進・昇格に差し支えるから(**)	自分の昇進・昇格に差し支えるから(**)	家が狭いから	子どもがのびのび育つ社会環境でないから	自分や夫婦の生活を大切にしたいから	自分または配偶者が高齢で、産むのがいやだから	自分または配偶者が育児の負担に耐えられないから	自分または配偶者が育児の負担に耐えられないから	精神的な苦痛が嫌だから	健康上の理由から	欲しいけれども妊娠しないから	配偶者の家事・育児への協力が得られないから	配偶者が望まないから	その他	特にな	わからない
日本	1	5	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
2010年(114人)	39.5	7.9	14.9	26.3	2.6	11.4	7.0	6.1	35.1	14.0	6.1	18.4	12.3	9.6	5.3	0.9	1.8	-	-	-	
2005年(125人)	56.8	-	-	-	16.8	11.2	11.2	3.2	31.2	9.6	8.8	19.2	6.4	7.2	1.6	4.8	0.8	0.8	-	-	
韓国	1	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
2010年(69人)	78.3	17.4	2.9	34.8	2.9	7.2	10.1	1.4	33.3	5.8	14.5	7.2	5.8	7.2	2.9	-	1.4	-	-		
2005年(97人)	67.6	-	-	-	15.5	2.1	15.1	6.1	34.7	19.1	13.5	12.4	8.2	2.8	5.0	1.8	2.9	-	-		
アメリカ	1	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
2010年(36人)	30.6	-	2.8	2.8	2.8	13.9	5.6	-	11.1	5.6	2.8	27.8	27.8	5.6	11.1	-	5.6	2.8	-		
2005年(28人)	28.6	-	-	-	10.7	3.6	7.1	14.3	3.6	-	39.3	28.6	14.3	4	4	4	4	4	4		
フランス	3	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
2010年(49人)	22.4	2.0	18.4	10.2	2.0	18.4	4.1	6.1	24.5	4.1	-	28.6	6.1	6.1	20.4	10.2	8.2	-	-		
2005年(49人)	11.0	-	-	-	10.6	6.2	-	2.5	18.7	4.1	-	43.1	10.7	5.6	20.3	7.4	4.6	4.0	-		
スウェーデン	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2010年(23人)	4.3	4.3	4.3	-	4.3	8.7	4.3	8.7	34.8	-	8.7	26.1	4.3	4.3	13.0	8.7	-	8.7	-		
2005年(33人)	3.0	-	-	-	6.1	9.1	3.0	3.0	39.4	12.1	9.1	24.2	12.1	3.0	21.2	6.1	3.0	3.0	-		

注1：上段の網掛け数字は各国の上位5項目の順番

注2：(\*)を付した選択肢は前回調査から新規に追加したものである。

注3：(\*\*)を付した選択肢は前回調査では、「自分の仕事(勤めや家業)に差し支えるから」と回答したものである。この選択肢は今回調査実施時には、「4 働きながら子育てができる職場環境がないから」と「5 自分の昇進・昇格に差し支えるから」とに分けて質問している。

(5) 婚外子をもつことに対する考え方 (問 17)

【全員に】

問 17 [カード 14] あなたは、結婚していないカップルが、子どもをもつことに対して、どのように感じますか。この中からあなたの考えに近いものを、1つだけ選んでください。

- 1 抵抗感が全くない
- 2 抵抗感があまりない
- 3 抵抗感が少しある
- 4 抵抗感が大いにある
- 5 わからない

結婚していないカップルが、子どもをもつことに対してどのように感じるか聞いたところ、日本では、「抵抗感が全くない」と「抵抗感があまりない」がそれぞれ前回調査から 3.9 ポイント、2.7 ポイント上昇しており、合計で 47.7%となっている。

各国比較でみると、「抵抗感が全くない」は韓国、アメリカ、フランスでは日本と同様に前回調査から上昇した。フランスとスウェーデンは、各国の中でも、約 8~9 割と高い。(図 II-7)

図 II-7

